

第2章

コートジボワールの部族構成

第1章ではアフリカ全体の部族構成について俯瞰的考察を行ったが、本章以下では西アフリカのコートジボワールに焦点をしばって、より詳細にアフリカの部族の実態について検討する⁽¹⁾。サハラ以南アフリカ48カ国のなかからコートジボワールを選択した理由は、まず何よりも筆者が過去30年、さまざまな視角から専ら調査研究の対象としてきた国であり、通算4年半にわたる現地滞在の経験を有しているということにすぎない。しかし、以下に紹介するようにコートジボワールは「部族の博覧会場」と称せられるほどに多彩な部族構成をもち、事例としてそれなりの適合性を有しているものとおもわれる。

本章では、まずコートジボワール全体の部族構成を検討し、次章ではそのうち8部族をとりあげて、各部族についてより詳細に考察する。

コートジボワール約1200万人(1992年)の住民のうち約7割を占めるコートジボワール国民は、60以上の部族から構成されている。表2-1は、1967年、コートジボワール計画省が公刊した人口調査報告書⁽²⁾(以下『政府報告書』と略記)にもとづいて作成したコートジボワールの部族構成の概要である。

A欄は『政府報告書』に記載されている部族名であり、B欄は『政府報告書』で「その他」として省略されているもの、あるいは上記の部族名に含まれているらしい部族の名を、ORSTOM⁽³⁾が編纂した『文化・部族的グループ地図』(*Groupes culturels et ethniques*) (以下『ORSTOM地図』と略記)から拾い、さらにC欄は1975年の『アビジャン県人口調査報告書』⁽⁴⁾から拾い出し

表 2-1-1 コートジボワールの部族構成 (1965年)

大分類	部族名		Ethnie	Murdock		グループ	
	A	B		C	部族名索引 No.		Cluster
Akan	1. Abron (Doma)			32/21	Akan	Twi	
	2. Agni			32/17	"		
	3. Baoulé			32/20	"		
	4. Ega			33/4	Kru	Kru & P. Mande	
	5. Akié (Attié)			32/19	Akan	Twi	
	6. Abé			32/24	Lagoon		
	7. Abouré			32/28 (Assinie)	"		
	Lagunaires	8. Abidji			32/27	"	
		9. Adioukrou			32/25	"	
		10. Alladian			32/26	"	
		11. Avikam			32/29	"	Twi
		12. Ebrié			32/30	"	
		13. Ahizi			32/25 (Adioukrouに含まれる)	"	
		14. Mbato			32/30 (Ebriéに含まれる)	"	
		15. Nzima			32/28 (Assinieに含まれる)	"	
		16. Eotilé			32/31	"	
		17. Essouma			32/28 (Assinieに含まれる)	"	
		18. Krobou			?	?	
Kru		19. Bété			33/3	Kru	
	20. Dida			33/4	"		
	21. Godié			33/4 (Didaに含まれる)	"		
	22. Guéré			33/24	Mande		
	23. Wobé (Ouobé) } (Wé)			33/9	Kru		
				33/3 (Bétéに含まれる)	"		
				?	?		
				33/3 (Bétéに含まれる)	Kru		
				?	?		
				33/1 (Bakwéに含まれる)	Kru	Kru & Peripheral Mande	
				33/6	"		
				31. Wané	"		
				33/1	?		
				33/3 (Bétéに含まれる)	Kru		

Mandé du Sud	35. Dan(Yacouba)	33. Kotrohoul							
	36. Gouro	34. Kodia							
	37. Gagou(Gban)								
	38. Toura								
	39. Mona (Nouam)								
Mandé	40. Ouan								
	41. Ngen								
	42. Malinké								
	43. Dioula								
	44. Foula								
Malinké	45. Koro								
	46. Koyara								
	47. Mahou								
	48. Ouorodougou								
	49. Bambara								
Voltaïque	50. Lobi								
	51. Sénoufo								
	52. Gouin								
	53. Tègesié								
	54. Birifor								
Voltaïque	55. Siti								
	56. Nafana								
	57. Koulango								
	58. Bouna								
	59. Diamala								
Voltaïque	60. Djimini								
	61. Palaka								
	62. Syenambélé								
	63. Tagouana								
	その他								

(出所) Ministère du Plan, *Côte d'Ivoire 1965, population, études régionales 1962-1965: synthèse*, Abidjan, 1967, および FORSTOM-IGT, Ministère du Plan de Côte d'Ivoire, *Atlas de Côte d'Ivoire*, 1979, p. B 2 a.

表 2-2 コートジボワール諸部族の分類比較

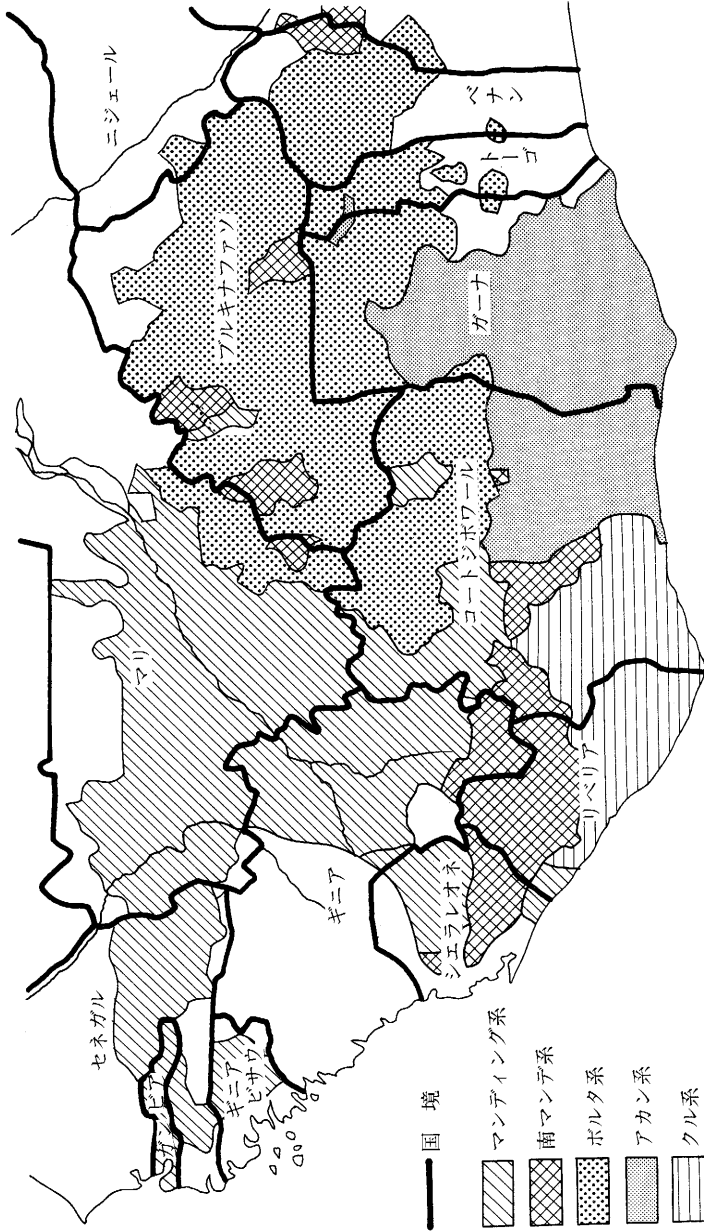
『政府報告書』	『ORSTOM地図』		マードック	
Akan	Akan	Akan	Akan	Twi
Lagunaires	Lagunaires		Lagoon	
Kru	Kru	Kru	Kru	Kru
Mandé de Sud	Mandé de Sud	Mandé	Mande (Intrusive)	Peripheral Mande
Malinké	Mandingue		Nuclear Mande	Nuclear Mande
Voltaïque	Sénoufo	Voltaïque	Senoufo	Voltaïc
	Lobi		Lobi	
	Koulango		Mole	
			Grusi	

た。その数は全部で63になった。これらは、前章で引用したマードックが48系統に分類して提示した853以上の部族名 (tribal name) の水準にほぼ照応している。また、この63という数は、植民地時代の初期、コートジボワールの植民地行政官であったM・ドラフォス (Maurice Delafosse) の行ったコートジボワールの言語に関する調査の報告書⁽⁶⁾に示されている60という言語数ともほぼ一致している。

さて、これら63の部族はそれぞれの系譜から、いくつかのグループに分類されている (表 2-2)。『政府報告書』ではその数は6つ、『ORSTOM地図』では大別して4つ、それらをさらに細分して8つ、マードックの場合には大きく4つまたは5つ (Kru and peripheral Mande)、より細かくは8つ (ボルトアイクの「intrusive-移入グループ」——具体的にはジュラ族をひとつと数えれば9つ) に分類されている。

『ORSTOM地図』による大分類の第1のグループ、“Lagunaires” (潟湖辺諸部族) を含めた広義のアカン語グループ (マードックはTwi語グループとよん

図2-1 コートジボワールの文化グループ



(出所) ORSTOM-IGT, Ministère du Plan de Côte d'Ivoire, *Atlas de Côte d'Ivoire*, 1979, p. B2 a.

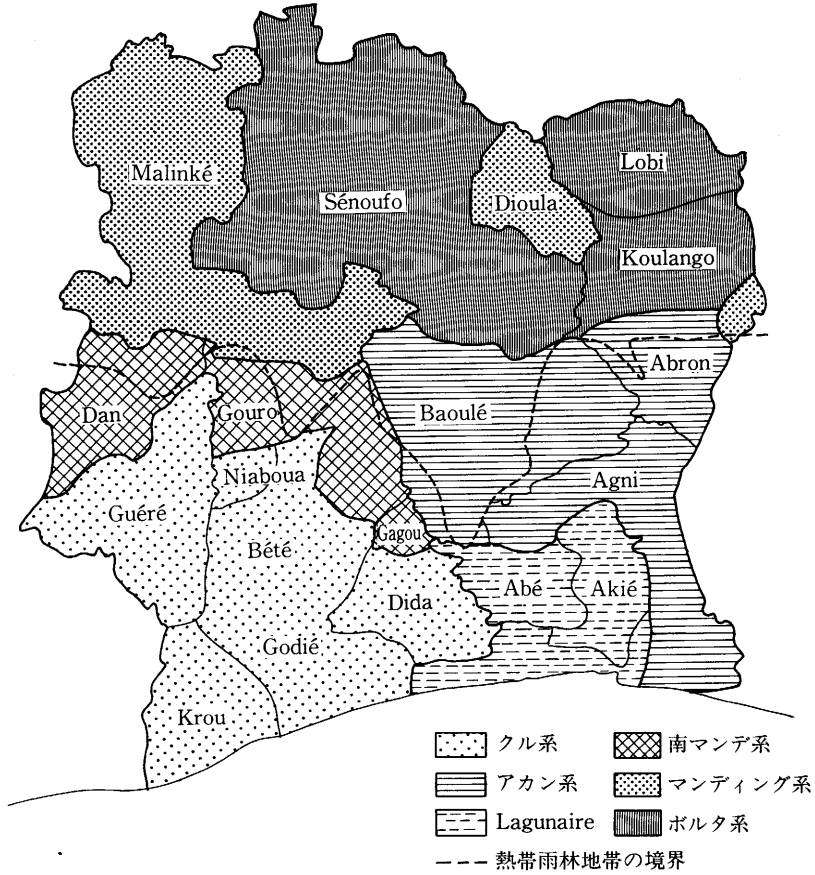
でいる)の諸部族は、17世紀から19世紀末にかけて東方、つまり今日のガーナの内陸部から移住してきた人びとの子孫と、その文化的影響下に入った先住民グループによって形成された諸部族である。したがって、アカン語グループは今日のコートジボワールとガーナの両国にまたがって分布しており、その大多数はガーナ国側に居住している。ガーナに居住するアカン語グループで歴史的に最も著名な部族は、部族連合を形成して19世紀末、イギリスの侵略に抵抗したアシャンティ族である。

第2のクル語グループは、コートジボワールの南西部からリベリアの東部に至る大森林地帯にかなり古くから居住している諸部族である。このグループに属する部族のなかでゲレ族 (Guéré, No. 22 <表2-1の部族番号, 以下同じ) は、マードックでは『政府報告書』、『ORSTOM地図』とは異なり、マンデ語グループに分類されている。ゲレ族は、マンデ語グループとクル語グループとの接点に居住し、次章で個別にとりあげて紹介するように北方からの移入の伝承をもつプロア (bloa, 第3章II節参照) も多く存在するところから、マードックはマンデ語グループに分類したものとおもわれる。

第3のマンデ語グループは、ニジュール川の上流地域の本拠地から次第に拡散していったと考えられているグループで、今日のマリ国の南部を中心にコートジボワールの北西部から、ギニア東部、シエラレオネ、さらにはセネガルのカザマンス地方まで広く分布しているグループである。このマンデ語グループは、『政府報告書』ではマリンケと南マンデに、『ORSTOM地図』ではマンディングと南マンデに、マードックでは中核マンデと周辺マンデに、それぞれ分類されているが (表2-2)、いずれも前者 (マリンケ、マンディング、中核マンデ) はそれらの本拠地とみなされている地域に居住している諸部族であるのに対して、後者 (南マンデ、周辺マンデ) は16世紀中葉頃 (それ以前にも徐々に始まっていたが) から、周辺地域に押し出され移入してきた人びととその子孫によって形成された諸部族であると考えられている⁶⁾。

第4のボルタ語グループの中核は、その名が示すとおり、かつてのオートボルタ国 (1984年に国名改定して現在はブルキナファソ) 側に存在している。セ

図2-2 コートジボワール主要部族の分布地図



(出所) 表2-1に同じ。

ヌフォ族，ロビ族などは，そのグループが南下して形成された諸部族であると考えられている。

以上にみたように，コートジボワール国民は南東，北東，北西，南西にそれぞれコートジボワール国境を越えて国外に接続している4つの文化圏に属

表 2-3 コートジボワールの部族別人口

(単位：1,000人)

大分類	部族名	1965年人口			1988年人口
		域内	域外	計	
Akan	1. Abron(Doma)	45	5	50	
	2. Agni	165	20	185	
	3. Baoulé	620	145	765	
				(1,000)	
Lagunaires	4. Akié(Attié)	135	25	160	
	5. Abé	70	15	85	
	6. Abouré	18	7	25	
	その他				
		100	25	125	
			(395)	3,251	
Kru	18. Bété	295	30	325	
	19. Dida	105	10	115	
	20. Godié	17	3	20	
	21. Guéré	180	30	210	
	22. Wobé(Ouobé)				
	その他				
		35	5	40	
			(710)	1,137	
Mandé du Sud	35. Dan(Yacouba)	230	15	245	
	36. Gouro	90	15	105	
	37. Gagou(Gban)				
	その他				
			(350)	832	
Malinké	41. Malinké	400	265	665	1,236
	その他				
Voltaïque	48. Lobi	30	5	35	
	49. Sénoufo	425	40	465	
	その他			200	
				(700)	1,266
	その他	?	?	180	55
コートジボワール人計		?	?	4,000	7,777
		アフリカ系外国人			3,001
		非アフリカ系外国人			32
		総計			10,810

(出所) Ministère du Plan, Côte d'Ivoire 1965, *population, études régionales 1962-1965: synthèse*, Abidjan, 1967, および République de Côte d'Ivoire, *Document de population, No. 26*, Abidjan, n.d., p.1.

する諸部族によって構成されている。コートジボワールの国境として継承された植民地境界は、そのようなこの地域の部族の分布に考慮を払うことなく植民地宗主国側の事情によって画定されたのである。もっとも4つの文化圏といっても、それら相互の接点においては各グループが截然と分かれているとはいえず、たとえば、前述のゲレ族の場合のようにマンデ語グループとクル語グループとのどちらにも分類することができるような部族も存在している。

いずれにしろコートジボワールの場合、今日の国境の枠内でその他のものを圧するほど支配的で優越した文化、部族は存在しなかった。コートジボワールという植民地時代のそれをそのまま継承したフランス語の国名は、そのことの傍証であるといえよう。そしてコートジボワールの諸部族にとっては、この国名は植民地時代以前の歴史的淵源を有していない抽象的な名であり、その意味ではこの国名は、コートジボワールの諸部族にとって消極的に平等で中立的な国名である⁽⁷⁾。

コートジボワールの63部族の人口は、表2-3であげた主要部族だけをとっても、大は76万5000人のバウレ (Baoulé, No. 3) 族から小はゴディエ (Godié, No. 21) 族の2万人まで、大小さまざまである。この表には示されていないが、ワネ (Wané, No. 31) 族などは、人口わずか500人と推計されている。『政府報告書』から引用した表2-3の1965年の数値は、5～15%の誤差を含むと注記されているきわめて大まかな推計であるが、諸部族の人口規模にはかなりの差があることだけは認められよう。

〔注〕 _____

- (1) 本章以下の内容は、原著（原口武彦『部族—その意味とコート・ジボワールの現実—』アジア経済研究所、1975年）の第2章「部族の現実」を加筆、修正したものである。
- (2) Ministère du Plan, *Côte d'Ivoire 1965, population, études régionales 1962-1965: synthèse*, Abidjan, 1967.
なお、コートジボワール政府は、その後、1975年と88年に国勢調査を実施し

ている。部族に言及した全体的なこの種の調査報告書はその後1994年現在まで公刊されていない。1975年の調査についてはアビジャン県についてのみの調査結果が公刊され、そこにはアビジャン県の部族別人口が示されている。1988年の国勢調査では、アカン、クルといった系統別5分類別人口が集計されているが、報告書としては未刊のままである。

- (3) フランスの海外領土、植民地を対象とする国立研究機関として1943年に設立されたORSTOM (Office de Recherches Scientifiques et Techniques d'Outre-Mer)は82年に改組され、その名はInstitut Français de Recherche Scientifique pour le Développement en Coopérationと改められたが、略称としては今日でも長年なじまれてきたORSTOMが用いられている。
- (4) Comité National de Recensement, *Recensement général de la population 1975: Département d'Abidjan*, Abidjan, 1978.
- (5) Maurice Delafosse, *Vocabulaire comparatif de soixante langues ou dialectes parlés en Côte d'Ivoire*, Paris: Leroux, 1904.
- (6) Y. Person, "En quête d'une chronologie ivoirienne," in J. Vansina et al. eds., *The Historian in Tropical Africa*, London: Oxford University Press, 1964, pp. 332-338.
- (7) 現ベナン国において、独立後の国家権力をめぐる諸部族間の抗争の過程で、旧国名ダホメが、国内の全部族に中立的なベナンという現国名に改められた経緯がある。原口武彦「アフリカ諸国の政変—その分類とベニンの事例—」(『アジア経済』第19巻第9号, 1978年9月) 56~72ページ。